

TAS PROGRAM DISCUSSION

TASプログラム 座談会

専門知識×応用力で税務のスペシャリストに！

税務および会計に関する高度専門職業人の養成を目的とするTASプログラム。税理士志望や、企業の税務・管理部門での活躍をめざす学生を対象としています。税理士試験科目の免除申請に対応したカリキュラムで資格取得をサポートしつつ、法学・経済学・会計学など多様なアプローチから税務について学修し、実践力がつく点が特徴です。TASプログラムの担当先生方と履修生にお集まりいただき、関西大学大学院商学研究科の魅力や研究の面白さ、後輩へのメッセージなどについて聞きました。

■ 関西大学大学院 商学研究科博士課程 前期課程1回



上村 健人 さん



翁 秀鳳 さん



片山 佳亮 さん



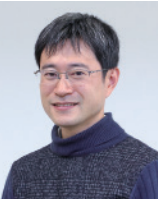
北本 隼士 さん



佐竹 蔵人 さん



千合 有紀 さん



福田 宗弘 さん



峯 陽子 さん

■ 関西大学大学院 商学研究科



担当：租税論
石田 和之 教授



担当：会計制度論
齊野 純子 教授



担当：租税法
辻 美枝 教授

北本さん：税制の成り立ちや判例について深く学べることに魅力を感じ進学しました。また、修士論文執筆という貴重な経験にも挑戦したいと考えたからです。



佐竹さん：税法の基本的な考え方を学べること、税法免除制度を活用できることが進学の理由です。
福田さん：資源である農地の持続的保全について、相続税法の立法趣旨から現行法の問題点を研究したいと考え、進学を決意いたしました。
峯さん：税理士試験科目の免除制度を活用し、早期の資格取得を目指して進学しました。

関西大学商学研究科を選んだ決め手

佐竹さん：大学時代に会計学を専攻していたため、試験科目に会計学があることが魅力でした。税法に比べて会計学の方が取り組みやすいと感じ、関西大学に決めました。
北本さん：事前に辻先生とお話しする機会があり、研究に対する熱意に感銘を受けたためです。また、学生主体で講義が進められる点も魅力的でした。難しい判例を理解し説明する力を身につけたいと考え、その環境



が整っている関西大学大学院商学研究科への進学を決意しました。
翁さん：TASプログラムでは、税法全般の知識を広く学べる上、私が特に興味を持っている国際課税についても深く学ぶことができます。さらに、充実したインターン制度があり、経営や会計の知識も修得できる点に魅力を感じました。
片山さん：大学時代に研究していた課税最低限について、さらに知識を深められると考えました。特に、辻先生の研究テーマである保険取引と課税に関する研究に強く興味を持ち、進学を決意しました。
福田さん：仕事と育児の両立をしながら学べる環境を探しており、日中に通学できる数少ない大学院の中で、指導教授の研究分野等を参考にして決定しました。
千合さん：母校である関西大学の大学院で学びたいと考えていました。各研究科を比較検討する中で、商学研究科の充実したカリキュラムに魅力を感じ、進学を決めました。
峯さん：勤務地から通える範囲に大学院があったので選びました。勉強の続けやすい環境を整えることは大切だと思います。
上村さん：母校である関西大学で学びたいと考えていた中、TASプログラムの存在を知りました。税法だけでなく、会計学の専門知識や実務を知ることができるビジネスインターンシップなど、税理士として必要な知識・スキルを総合的に学べる環境が整っています。

研究テーマと楽しかったこと

翁さん：研究テーマは国際課税と法人税です。仲間との切磋琢磨による成長と、先生方からの的確なアドバイスを通じて税法・会計への理解を深められたことが喜びです。



福田さん：農地の相続税における納税猶予制度で、特に市街化区域内農地を研究テーマとしています。理系出身の私にとって、未解明の課題に取り組み、新たな知見を見出していく過程に研究の醍醐味を感じています。
上村さん：企業のM&Aに関わる組織再編税制を研究テーマとしています。合併や分割型分割などの課税繰延制度について研究しています。未知の領域を自ら調査し、理解を深められることを楽しんでいます。
峯さん：企業価値の重要な要素である「のれん」について研究しています。実務経験では得られなかった深い理論的理解をTASプログ

ラムで追求できることが、大きなモチベーションとなっています。
北本さん：法人税法における事業再生税制が研究テーマです。税理士試験では学べない立法趣旨や国際比較など、より深い視点から税制を考察できることが魅力です。
片山さん：所得税法における課税最低限、特に人的控除について研究しています。試験のための勉強とは異なり、知識の地平が無限に広がっていく探究の過程に、大きな喜びを見出しています。
千合さん：研究テーマは所得税法における教育費の取り扱いについてです。漠然とした問題意識が、先行研究や先生方・仲間との討論を通じて明確な研究課題として結実していく過程に、学びの醍醐味を感じています。
佐竹さん：法人税法における違法支出の損金該当性について研究しています。法規定の成立過程や判例の展開を紐解きながら、制度の本質に迫れることにやりがいを感じています。

関西大学大学院商学研究科で学ぶ魅力

福田さん：充実した国際交流環境と研究設備が魅力です。前期の英語の授業では中国出身のクラスメイトと英語でコミュニケーションを取る機会が多くありました。また、図書館をはじめとする充実した研究環境も、学びを深める上で大きな強みとなっています。
上村さん：同じ目標を持つ仲間と出会えることです。税理士試験の勉強は孤独になりがちですが、大学院には励まし合える仲間がたくさんいます。また、データサイエンティストを目指す方など、多様な目標を持つ学生との交流も刺激になっています。



峯さん：充実した学習環境が整っており、特に図書館の蔵書の充実度は、他大学の学生からも高い評価を受けています。また、共同研究室など自分専用の学習スペースがあり、集中して研究に取り組める環境が整備されています。
北本さん：多様な出会いがあることです。他大学の学生との交流や、第一線で活躍する実務家による授業など、様々な学びの機会があります。特に、異なる経歴を持つ社会人の方々から貴重なアドバイスを頂けることは大きな特徴です。
翁さん：仲間と切磋琢磨できる環境です。お互いの長所を活かしながら学び合えることは大きな強みです。また、先生方の温かい指導体制も、私たちの成長をサポートしてくださいます。



佐竹さん：先生方の丁寧な指導と実践的な学びの機会が充実しています。インターンシップなど、実務経験を積める機会も用意されています。
千合さん：幅広い年齢層の方々との交流ができ、多様な視点から刺激を受けました。また、充実した施設環境は、学習効果を高める大きな要因となっています。
片山さん：人脈形成と総合的なスキルアップが期待できます。切磋琢磨できる仲間との出会い、ビジネス英語などの実践的なスキル、そして豊富な蔵書による知識の獲得など、総合的に成長できる環境が用意されています。

進学前に準備したこと

北本さん：私は商学部出身なので、勉強する内容にはなじみがありました。事前準備として、進学を希望する研究科の先生に面会し、研究へのモチベーションや取り組み方についてお話を伺う機会をいただきました。意識したのは、単なる受験対策ではなく、研究に必要な基礎知識を身につけることです。



峯さん：指定図書を読むことが主な準備でした。振り返ると、より具体的な準備方法や相談できる窓口について、事前に情報があれば良かったと感じています。
上村さん：経済学部出身で、税制については全く未経験でしたが、だからこそ基礎から学ぼうと考えました。指定図書に加え、さらに基本的な文献から学習を始めました。研究計画書作成では、税法の修士論文の執筆方法に関する書籍を参考に、研究テーマを絞り込んできました。
福田さん：入試の過去問を取り寄せ、出題傾向を分析しました。法人税法（国内税務・国際税務）、消費税法、相続税法については条文がある程度頭に入っていたため、何が出ても解答できると考えていました。
片山さん：指定図書から1冊を選び、徹底的に読み込む方法をとりました。何度も繰り返し読むことで内容を完全に理解し、それが試験での成功につながったと考えています。
千合さん：過去問の分析と指定図書の精読を中心に準備を進めました。特に研究計画書の作成では、判例の分析方法について専門書で学び、テーマ設定に活かしました。
佐竹さん：試験科目の一つである会計学を受験するにあたって、財務諸表論の理論の要点チェックノートをもとに対策しました。
翁さん：留学生として、半年前から計画的に準備を始めました。会計の基礎として簿記2級の取得を目指し、税法については入門書と講義を通じて基礎知識の習得に努めました。

TASプログラム進学を考える後輩へ

片山さん：税法論文は4万字以上あります。一見、文字数は大したことがないように思えるかもしれませんが、相当な努力が必要です。この点はぜひ心に留めておいてください。
福田さん：研究は楽しむものです。充実した研究生活を送ってほしいと思います。



上村さん：税理士試験対策として論文を書こうと考える方が多いかもしれませんが、論文執筆も決して楽ではありません。自分と向き合い続ける姿勢は、税理士試験でも論文執筆でも同じです。しかし、大学院には励まし合う仲間や体系的な学びなど、ここにしかない魅力にあふれています。ぜひ一緒に学んでいきましょう。
峯さん：TASプログラムは会計と税法の両方を学べ、将来の税理士業務に直結するカリキュラムとなっています。会社の決算書作成では、監査に耐える会計処理が求められます。また、新しい会計基準への対応も必要です。その際、処理の根拠を明確に説明できる力が不可欠ですし、さらに税務申告では、会計と税法の違いについても説明できればなりません。TASプログラムではこれらの力を総合的に身につけることができます。
北本さん：TASプログラムは研究に集中できる環境が整っています。単なる税法免除という目的だけでなく、研究を通じて自己成長を目指す場所です。修士論文の執筆を通して、充実した2年間を過ごすことができますよ。
翁さん：専門知識の習得はもちろん、コミュニケーション力やプレゼンテーション力など、税理士に必要な総合的な能力を育めます。
佐竹さん：研究していくにつれて、多くの困難に直面することもあります。それらは必ず自分の糧となります。頑張ってください。
千合さん：頻繁に報告機会があり、時間管理の面で苦労することもあります。税法・会計の専門知識に加え、プレゼンテーションスキルも身につけます。様々な面で成長を実感できる環境ですので、ぜひチャレンジしてください。
石田先生：私たち教員も全力でサポートしますが、主役は学生の皆さんです。修了後に、TASプログラムで学んでよかったと実感していただけるよう、しっかりとサポートしていきます。
辻先生：学生の皆さんとの対話を通じて、私たち教員も多くの刺激を受けています。実りある大学院生活となるよう、TASプログラムで共に研究を深めていきましょう。
齊野先生：本日は、教員の方々、院生の皆さん、貴重なお話をありがとうございました。率直な意見交換ができ、大変充実した座談会となりました。これからも皆さんの活躍を期待しています。

